

銘柄分析レポート：苦痛関連銘柄

1 はじめに

『新ファンド・マネジャー』（後に『マネーマスターズ列伝』として再編）には、ピーター・リンチを筆頭に 8 人の名投資家が紹介されています。

その中で、印象に残っているのがラルフ・ワンガーという、将来性のある小型株の発掘を積極的に行っていた投資家です。個人的に琴線に触れた箇所を紹介しましょう。

さらに、事態の悪化に乗じて繁栄するといった類の会社があることも忘れてはならない。たとえば、H&R ブロックは税制が複雑なればなるほど儲かる会社だし、コマース・クリアリング・ハウスは規制に乗じて食べているといえなくもない。保険代理店業者は世の中の危険増加を頼りに収入を増やしている。ワンガーはこの手の銘柄を「苦痛関連」と呼んでいる。

この記述を読んでから、私も苦痛関連銘柄に注目するようになりました。ちなみに、私の主な投資テーマは次のとおりです。

1. 斜陽産業
2. 低く見られている仕事
3. 苦痛関連

では具体的に、どのような会社が苦痛関連銘柄に該当するのでしょうか？ ひとつの視点として、我が国の置かれている自然環境を考えてみるのも興味深いです。

- 高温多湿である
- 台風や地震など自然災害が多い

私がかつて住んでいた県営住宅では、春にはシロアリが飛び回っていました。今の実家は網戸の立てつけが悪く、夏場は蚊に悩まされています。

趣味のローカル線に乗車する旅も、台風や地震の被害を受けたローカル線の不通により延期を余儀なくされ、念願であった三陸地方を訪問できたのはつい最近でした。

ということは、裏を返せば、こういったところから恩恵を受けて繁栄する会社も存在するわけです。今回の銘柄分析レポートでは、「苦痛関連」の 3 銘柄を取り上げます。